

出題年度：2025 年度

<問 2>

【出題意図】

本問題は、言葉の撤回と責任について論じること、倫理観や批判的思考力を養うことを目的としている。

まず、言葉に対する責任の重要性を理解し、自らの発言の影響を倫理的な視点から考察する力を評価する。また、他者の言葉の使い方や責任回避の問題点を批判的に捉え、自身の意見を論理的に展開できるかが問われる。さらに、対話の価値を再認識し、社会における言葉の重みについて深く考察できるかが重要である。最後に、論理的かつ説得力のある文章を構築する力を評価し、表現力と構成力の向上を図ることも目的とされている。

【模範解答（要点）】

題名：「言葉の重みを問う―責任と対話の未来」

- ・言葉は他者との関係を築く基盤であり、一度発せられた言葉には責任が伴うべきである。
- ・「発言の撤回」という表現は、自らの発言に対する責任を軽視し、対話の信頼性を損なう行為である。
- ・発言が誤認に基づく場合、事実を訂正し、自らの過ちを認める姿勢こそが責任を果たす行動と言える。
- ・「言葉の撤回」が常態化すれば、他者が発言の真意を理解しようとする努力を無意味にし、対話そのものを破壊する可能性がある。
- ・政治家や公人が言葉の責任を回避することで、社会全体のコミュニケーションの質が低下する恐れがある。
- ・今後の社会では、言葉を単なるツールとして扱うのではなく、互いを尊重し、信頼を築くための手段として再認識することが重要である。